

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0971000450		
法人名	特定非営利活動法人 あすなろ友の会		
事業所名	グループホーム あすなろ		
所在地	栃木県大田原市佐久山2274-5	電話:	0287-28-3676
自己評価作成日	平成22年4月15日	評価結果市町村受理日	平成22年 6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル3F
訪問調査日	平成22年 5月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>春には桜、秋には紅葉が見どころの公園があり、自然に恵まれた場所です。 近隣には、高齢者の集うほほえみセンター、小学校、又敷地内には市で運営している「つどいの広場」と当法人で運営する学童保育館があります。 地域の高齢者と合同で運動会をしたり、幼児や学童と季節の折々に行事を催したりし、地域の方々との交流に力を入れています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームの運営母体は特定非営利活動法人あすなろ友の会であり、理事長はこの地域に開業する内科医で地域との関わりは深く、利用者全員の主治医でもある。また、精神科医(嘱託医)の月2回の往診により適切な医療支援が受けられている。地域包括支援センターの支援を得て、認知症サポーター養成講座を継続開催し、地域での認知症に対する理解を深めている。市が開催する研修会や委託事業などの関わりで、行政との連携も深く、地域とともに歩む姿勢がホーム運営に反映されている。敷地内には同法人が運営する学童保育館があり、毎日、中庭で楽しく遊ぶ子供たちの元気な声や笑顔にふれ、利用者のほほえましい姿が絶えない和やかなホームです。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価()	外部評価	
			実践状況	実践情況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内には、誰もが見えやすい場所に掲示して常に目で見えて皆で共有している。	理念を「力をあわせて、なじみの環境をつくるケア」などの8つのケアとして、玄関、事務室や食堂に掲示し、毎朝、職員間での申し送り後にその理念を唱和・確認し合い実践している。 また、毎年、日々のサービス提供で利用者の「その人らしさを大切にする」ため職員全員の重点項目を策定し、今年度は「報・連・相」を掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常でのゴミ出しや、散歩、買い物などを通じてお互いに声かけ合える機会を作っている。	地域自治会に加入し、地域が開催する「花火大会」や小学校の「運動会」などへの参加とホームの行事に地域の方々をお誘いするなど交流は多い。 8月には、ホームの「5周年記念事業」として、日頃お世話になっている地域の皆さんや関係者200名を招いて、認知症講演会、流しそうめん、福原餅つき唄などの行事を盛大に開催し、多くの地域の方々とのつながりが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症サポーター養成講座」や講師を招いての講演会、又医師である理事長からの定例会での講話等積極的に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に1回、定期的で開催し意見や情報交換をし、サービスの向上に繋がるよう努めている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、一度も欠かさずことなく開催し、現状報告、意見交換、要望に加えて、家族の状況などのお話をいただき、今後のサービス向上に努めている。 また、運営推進会議で「地域でもっと認知症を理解してもらふ必要性」につき助言があり、地域包括支援センターの支援を得て、認知症サポーター養成講座を継続開催している。	会議メンバーの参加率の向上への工夫と「災害対策などでの地域協力体制」の議題で近隣住民の出席を要請などを検討し具体化されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市、サービス事業者連絡協議会への出席やそれ以外にも運営上の色々な相談をし、市の指導のもとにサービス向上のための意見交換をしている	市の担当窓口とは、運営推進会議への参加のほか、連絡や事業運営に関する相談、市が開催する研修会や委託事業などとの関わりから、折にふれ日常的に訪問して連携を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価()	外部評価	
			実践状況	実践情況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりを見守り、接し、触れ合う機会を増やし伝えたくてもうまく伝えられない気持ちやサインを受け止め、不安や不快、孤独を少しでも緩和していることに努力している。	玄関からの出入りは事務所から見える配置にある。居室は掃出し窓からベランダへの出入りは容易であり、職員の観察、見守り、声かけなどで支え、日中は施錠していない。また、不意な外出を想定した対応マニュアルがあり連絡方法、捜し方など決めている。 身体拘束廃止については、重要事項説明書、運営規定に明記し身体拘束をしないケアを徹底している。	認知症サポーター養成講座の継続開催とあわせて、近隣住民の協力を得て非常時のネットワークを構築することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連図書の閲覧をし、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会等に参加して、職員には資料等を回覧している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間をかけて、理解を得るまで話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月に開催している運営推進会議や定期的に行われる家族会総会等で、その機会を設けている。	家族会、運営推進会議、月1回の家族との面談、ご意見箱の設置など、利用者、家族から広く意見・要望を伺う機会を設け、意見・要望は全職員で構成する苦情対応委員会で検討・共有し、サービスに反映している。また、毎月担当職員が手書きした利用者の生活状況記録を家族に郵送して喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議や、必要時には、臨時の会議などで、その機会を設け、反映出来るようにしている	毎朝の申し送り時に意見や要望を出してもらい、その意見・提案の中から運営に関する重要事項は職員会議で検討して運営に反映している。また、一般的な事項は掲示板や申し送りノートにより全職員に徹底している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事会を通じて、施設内運営状況や職員の勤務状況の把握をしている。 又こまめに施設を訪問し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価()	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を年度初めに立て、計画に沿って行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業連絡協議会の地域密着型サービス部会で行われている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込書受付時にご家族よりご本人の情報聞きご本人を訪問し、状態等の把握にも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは十分に話し合い必要な情報を聞き入れると共により関係が築かれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け入れる以前に関わってきた事業所等から情報収集に努めている。十分な聞き取りをし、必要があれば他事業所等へ紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を使ってご本人の情報を得るために担当職員が時間をかけて接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と行う夏祭りは、毎年恒例となりつつある。家族会の時には、必ず入居者・家族・職員と一緒に食事をする。		

自己	外部	項目	自己評価()		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人・ご家族からの情報を基に馴染みの人や場所の把握に努める。	アセスメントシートにより本人の生活歴や家族からの聴き取りから、馴染みの人や場所の把握に努め、手紙や電話での連絡、随時受け付けている面会などで、友人との良好な関係が継続できるよう努めていて来訪者も多い。 また、利用者が通っていた小学校が、道路の向かい側にあり、運動会などの行事には、昔を懐かしみ子供たちと一緒に楽しんでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに長椅子を置いたり、ダイニングの配置の工夫をして、みんなで関わり合えるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、入院又は入所した病院や施設の関係者と連絡を取り合いながら必要な対応をしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやモニタリング等の情報を職員間で共有し、希望や意向に沿った生活が出来るように努めている。	アセスメントや日常のサービス支援の中から、本人の意志や思いなどを汲み取って、職員間で共有・連携し、利用者のニーズにそった生活ができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで利用していたサービスの事業所からの情報に基き、ご本人やご家族等からよく聴取しその把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、一人一人の心身の状態を観察し、定期的にモニタリングやアセスメントをしながら現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使ってアセスメントを行い、定期的にご本人のためのケアについて話し合いをしている。	利用者の状況を把握して介護計画、モニタリングに至る過程を利用者の視点に立ち、その人らしく暮らし続けるよう介護計画担当と職員が連携して行なっている。 また、計画は、定期的な見直しと、利用者、家族の意見・要望やモニタリングに基づき見直しを随時行ない、利用者、家族に説明・同意を得て実施している。		

自己	外部	項目	自己評価()	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、温度板、アセスメントシート他、申し送りノートを使って職員間に情報が浸透するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理事長が医師のため、医療的フォローの要望が多い。医療機関への連携が取りやすく、状態や症状に合わせた受診や検査及び治療が円滑にしやすい。又、嘱託医を配置して医療に重点を置いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢者はほほえみセンターへの訪問を希望する時は送迎している他、合同で行事を行っている。絵手紙、そば打ち、お化粧、生花等のボランティアは定着し好評である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的且つ突発時の受診や往診は施設独自の連絡網を使い円滑である。又月2回嘱託医による定期健診を行っている。	本人及び家族の希望により、法人の代表である内科医が利用者全員の主治医になっており、医院が近くにあり通院を支援している。月2回、精神科医(嘱託医)の往診による定期健診を行なっている。歯科、外科などの医療機関の受診は基本的に家族が通院介助しているが、家族の対応が困難な場合はホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内看護職とかかりつけ医院の看護職が密に連絡をとり、健康管理にも注意を払っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族とも連絡をとり合いながら、そのようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態を見ながら医師へ相談し、ご家族とも十分に話し合っそのように努めている。	ホームでの看取り経験はないが、準備として終末期についての研修は受けている。本人・家族との同意書に基づき医療依存が低い老衰状態なら看取りできるとしている。重度化し医療依存が高くなった場合は適宜、医療機関を紹介することとしている。	早い段階から話し合いをもち、対応方針につき家族と同意書で共有しているが、重度化や医療依存が高くなるなどの状況変化に応じて、利用者や家族が要望を率直に話せる相談体制の維持充実を期待します。

自己	外部	項目	自己評価()		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の薬等が備えてあり、AEDを設置している。 医師の指示のもと、初期対応について、適宜話し合っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣組に挨拶をし、地元消防団とも交流を図るなど努めている。	年2回の避難訓練、消火器の使い方訓練を実施している。夜間を想定した訓練でも消防署の協力を得て実施している。玄関以外に3ヶ所の非常口があり、全室が掃き出し窓からの脱出も可能となっている。スプリンクラーの設置も平成23年2月に予定されている。	全職員が臨機応変に行動できるまで繰り返しの訓練、夜勤一人体制時での避難・誘導手順の見直しと確立、近隣住民との協力体制の確立と役割分担を明確にして避難訓練への参加要請、防災グッズの備蓄を併せて期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関する資料は、ファイルに綴り書庫に保管している。	毎朝のミーティング時に唱和している経営理念「人としての尊厳と自由を守るケア」を大切にして接している。名前の呼び方は家族などに了解を得た上でその人に最も相応しい言葉を選び、個々人の好みや理解力に応じた言葉かけの工夫をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくご本人の希望を聞き、要望に沿ったことを行っている。 日々、個別的な対応を心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の食事や入浴、余暇の時間など、その日、その時のご気分に合わせて柔軟な対応ができるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を取り入れて、理美容店へ送迎している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き入れてメニュー作りをしている。 衛生面に注意し、食事の準備をしている。 季節の料理や郷土料理にも力を入れている。	利用者の好き嫌いや季節感を織り込んだ週間単位の献立表に基づき、経験豊かな担当者が調理に当たっている。居間兼食堂の一角をカウンターで仕切った形の厨房は利用者の五感に訴え準備や調理への参加を促したり食欲を増す効果が出ている。		

自己	外部	項目	自己評価()	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関のアドバイスを受けて、季節ごとの水分摂取量等の指示を受けている。 又連携施設の管理栄養士の指導を随時受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ごとに口腔ケアを職員が付いて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄時同行したり、声掛けをしている。	排泄チェック表により各利用者の排泄パターンを把握し、さりげないしぐさや表情などからもタイミングを察知してトイレへ誘導するなどで自立に向けてその人に応じた支援をしている。また、体調の維持・安定を図るために全員で午前と午後にはリハビリ体操をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、排泄サイクルの把握に努めている。AM/PMのリハビリ体操には全員参加していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室は毎日解放。治療中の病気やその日の体調により特別主治医よりの指示のある方以外は、その都度声を掛け、入りたい時間帯の確認をとりながら対応している。	浴室は毎日夜9時まで開放している。入浴希望やタイミングは一人ひとりのバイタルチェック時に確認している。入浴を渋る場合でも、気の合う職員が信頼関係を築くようにして誘いかけをするなど工夫して清潔保持に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の睡眠の状態を、申し送り等で把握したり、食後の時間帯は、特に観察をし、食休みや午睡にも気配りができるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服一覧のファイルを見て、個々の服薬内容の把握に努めている。 又主治医や看護師の指示・臨検した内容を記録し、体調の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動の時間を使ったり、外出の際の行先等を配慮したり、又季節の行事を皆で手作りしている		

自己	外部	項目	自己評価()		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回外出の他、散歩、買い物等施設内にもこもらないように努めている。	毎月の外出や外食行事の他、散歩や買物などにも心配りが伺える。訪問日には、職員から「明日はみんなで回転寿司へお出かけですね・・」などと楽しそうに話していた。	利用者の高齢化やADLの低下に伴い日常の外出は困難になると想定されるが、天気の良い日には近くの散歩や一緒に買物などの利用者が楽しみにしている外出や戸外での行事を継続されることを期待します。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物の際には、個々のお小遣いを持ち職員が付き添ってお金を使えるよう支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に自由に電話が掛けられるようにしたり、余暇時間で書いた絵手紙を出したりする方もいる			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作った作品や生花を飾ったり、リビングには音楽を流したりして、心地よい空間作りを心掛けている。	椅子とテーブルのある居間兼食堂と掘り炬燵のある一段高い和室はカウンター形式の厨房とも一体感を感じさせる開放的な構造となっている。利用者手作りの絵手紙などや生花に囲まれ、いつも懐かしく優しい音楽が流されている。通所介護の利用者を含め全利用者がここで寛いでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のコタツに入り、おしゃべりをしたり、個々の居室で、一人でくつろいでいたり、めいめいに自由にできる環境作りの努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い居室作りに職員も関わり、ご家族に相談しながら色々工夫をしている。	写真や思い出の品々、独自の装飾、数々の鉢植えまで持ち込む人もあり、思い思いの環境づくりが伺える。和室も2部屋あり、利用者の希望によっては部屋の入れ替えにも応ずるなど、柔軟に対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	まずは、ご本人にできるところまで、やっていただけるよう職員は側に付き見守る。不十分なところを確認をしながら支援している。			